

地元の資源をどう取り上げるのか 江戸幕府の成立と鳥取藩（江戸時代入門）

村山明生

鳥取大学附属中学校 社会科

E-murayama524@fuzoku.tottori-u.ac.jp

Akio MURAYAMA (Tottori University Junior High School) :**How we make use of local resources to classes? - Formation of the Edo Shogunate and Tottori Han (Introduction to the Edo Period) -**

要旨 — 江戸時代の幕藩体制について、幕府や藩の立ち上がりの歴史をわが鳥取藩目線でみていく授業を構成した。鳥取藩には、日光東照宮の東照大権現の分霊勧請のうごきがあり、因幡東照宮が創建されたり、それに伴って麒麟の獅子頭も考案されたりしている。これらの一連の関連性を授業でどう扱うかを提案する。

キーワード — 江戸時代入門、鳥取藩、鳥取東照宮、因幡東照宮、樗谿神社、麒麟獅子舞

Abstract — We performed history classes of the Baku Han system in the Edo Period, focusing on the formation of the Edo Shogunate and Hans through the eyes of Tottori Han. In the Tottori Han, there was a movement for parting and beckoning deities from the Tosho Dai-Gongen of the Nikko Tosho-gu Shrine. Followed by this, Inaba Tosho-gu Shrine was built in Ochidani, Tottori City. Heads of the lions of the Kirin Lion Dances were also devised at that time. In this article, I will propose ideas how to deal with the relationship between these events in the history classes in junior high schools.

Key words — Introduction to the Edo Period, Tottori Han, Tottori Tosho-gu Shrine, Ochidani Shrine, Kirin Lion Dances

1. 授業構成

(1) 教師と教材

昨年度、「地元の資源を授業にどう取り上げるか」という大テーマのもと、本校の眼前に広がる湖山池や天神山城に関する授業を行った。近世以前は湖山池はまだ形成されておらず、日本海からの入海で、中世から近世にかけて徐々に砂の堆積がすすみ湖山池が形成されていったのである。1466年山名勝豊の天神山城築城以後1573年豊国が鳥取城へ移るまで、この湖山池の地が因幡国の政治の中心であったことは、広く知られてはいないが、極めて重要な地元の歴史であろう。湖山池が形成されるのと期を同じくして天神山城から鳥取城へ近世の政治の中心地がシフトしていったのである。

昨年度十分扱い切れなかったこととして、天神山城の外堀の内側にある日吉神社の存在がある。その神社の成り立ちが、山王信仰とよばれる日吉大社とのつながり（分霊勧請の動き）、

さらには、その日吉大社は将軍足利家の氏神だという関連性を授業化することができなかった。

今回は、江戸時代の幕藩体制について、幕府や藩の立ち上がりの歴史をわが鳥取藩目線でみていく授業づくりを行った。くしくも日光東照宮の東照大権現の分霊勧請の動きがあり、因幡東照宮が創建されたり、付随して、麒麟の獅子頭も考案されたりしている。そこで、この関連性を授業で扱うこととした。

(2) 子どもと教師

昨年度は、「歴史のとらえ方」という位置づけで、歴史的分野の導入で湖山池関連の学習を行った。その後、学習がすすみ今回は、「江戸時代入門」と題して、江戸幕府と鳥取藩との関わりをより具体的に、より身近に感じられよう、そして、地域史に興味関心を今まで以上に持つことができるよう授業化を試みた。

(3) 子どもと教材

本校生徒は、通学範囲が広く、鳥取県中部～兵庫県北部の広域から登校している。昨年5月話題になった日本遺産追加認定された「北前船寄港地」の兵庫県新温泉町の諸寄港、鳥取市の賀露港、青谷港に渡るエリアと本校生徒の通学域がほぼ一致している。今回日本遺産に追加認定されなかった麒麟獅子舞についても、「麒麟のまち」として認知度は高い。ちなみに獅子に頭を噛んでもらったという生徒は半数以上である。

伝統的な権威とはどういうことか。分霊を勧請するとはどういうことか。等、難解な言葉も出てくるが、それはどういうことか具体的にとらえたり、地元の再発見につながったりすることを期待している。

2. 授業づくりのプロセス

地元の資源を取り上げるわけなので、教材研究の基本として、現地に出向くことが不可欠となる。昨年度は、日吉神社・布勢古墳・天神城跡などに行き、写真を撮り授業資料づくりを行った。今回は、まず鳥取東照宮（地元では樗谿神社と呼んでいる）に実際に行ってみることにした。文献資料などをそろえる必要もあるが、まず現地に行くことが鉄則である。

十数年ぶりに因幡東照宮（地元では樗谿公園・樗谿神社といわれている）に行ってみて名称が変更され鳥取東照宮となったことを知ったしだいである。掲示板には以下の通り。



これでは文字が読み取れないのでこのまま授業では使えない。自分でパソコンで打ち直し授業資料とした。授業では、授業者の都合で途中を省略して生徒に提示することにした。史跡の掲示板は、各教育委員会が市民向けにわかりやすくまとめられている絶好の資料である。

以下、具体を示す。

重要文化財

おちだに

「樗谿神社本殿・唐門・拝殿及び弊殿」

指定年月日 昭和27年7月19日

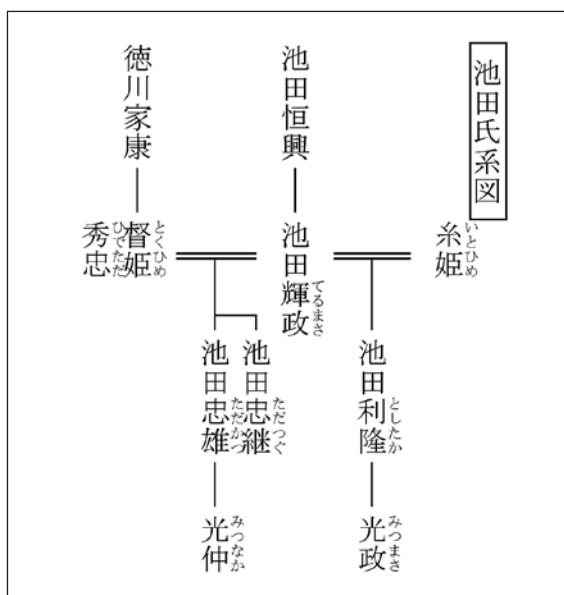
（平成23年10月に神社名を「鳥取東照宮」に改名したが、文化財指定名称は従来通り。）

樗谿神社は、慶安三（1650）年鳥取藩主池田光仲によって、日光東照宮の分霊を勧請して造営され、因幡の東照宮とも呼ばれる。

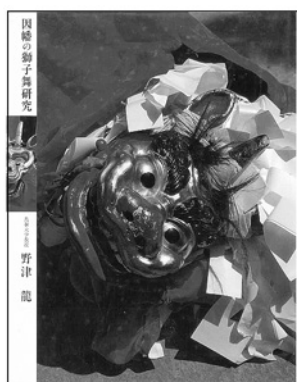
池田氏は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に仕え、とくに池田輝政（光仲の祖父）は、徳川家康の信任がことのほか厚く、関ヶ原の合戦での行賞により姫路城主として播磨国（現在の兵庫県南部）52万石を所領とした。輝政は將軍家康のために西国大名を押さえ、「西国將軍」とも呼ばれた人物で、家康の娘督姫を継室に迎えている。池田光仲は、輝政と督姫の孫で、徳川家康にとって曾孫にあたる。このように徳川將軍家と深いつながりを持つ初代鳥取藩主池田光仲が藩主として行った大事業のひとつが、曾祖父家康の霊を祀る日光東照宮の分社樗谿神社の造営であった。この造営には、日光東照宮を手がけた幕府のお抱え棟梁 木原木工允藤原義久らがあたり、完成後は神領500石を寄進され、藩内最高の社格として位置づけられた。

（以下省略）

平成15年5月 鳥取県教育委員会



この資料を手がかりに、単元の授業を構成していくことにしたわけだが、単なる雑学的に知識を紹介しても歴史へ興味関心の高まりは限界がある。やはり授業となると「おそらく・・・だろう」がなくては学ぶ好奇心も何も生まれない。そこで今回は、地元で東照宮があるということに加えて、東照宮を創建するのに尽力した池田光仲が、麒麟の獅子頭を考案したのではないかという説を紹介し、考察するような流れで授業を構成すれば広がりのある授業が展開できるのではないかと考えた。ちなみに、光仲が麒麟の獅子頭を考案したのではないかという説は、『因幡の獅子舞研究』において元鳥取大学教授 故 野津 龍氏が述べておられる。麒麟とは何なのかという疑問も当然出てくると予想されるが、この辺りは歴史に詳しい生徒の発表に期待して授業に臨むことにした。



主発問として、①全国 550 社以上の東照宮が作られたのはどうしてだろう。②光仲が麒麟の獅子頭を考案した理由は何だったのだろう。の 2 つが柱となると考え、次のような全 7 時間の授業を構成した。

授業を構成する上で、できるだけ生徒に主体的に授業に参加させる手段として池田光仲の肖像画を描かせるという取り組みを実践してみた。教材研究をする中で、池田光仲の肖像画がどれをみても晩年のものしかないのである。（これは光仲が長生きをした証拠でもある。）東照宮を創建したり麒麟の獅子頭を考案したころは 20 前後の青年だったのだから、その若い頃の光仲を想像してみることが大切だと考えた。関係ないと言えば関係ない作業かもしれないが、昨年度、湖山長者の紙芝居を描かせたように生徒たちに授業に主体的にかかわるきっかけとした。

3.1 単元の構成（全 7 時間）

【1 時間目】ねらい：日本の人口の変化に興味を持たせ、江戸時代のイメージを持たせる。

学習活動	発問等（意図）
1. 人口の変遷について把握する	奈良時代 700 万人 江戸初め 1500 万人 江戸中頃 3000 万人 江戸幕末 3000 万人
2. 江戸時代後半、人口が停滞した理由を考える	◎江戸時代後半なぜ人口が増えなかったのだろう。（江戸前半は成長、後半は停滞）

【2 時間目】ねらい：クイズや作業を通して江戸時代に興味を持たせる。

学習活動	発問等（意図）
1. 家康クイズに挑戦	・ 四択クイズ等で家康の基本情報を確認する。
2. 家康の一生を年表で把握する	◎わずかに 2 年余りで家康が将軍を辞めた理由は何だったのだろう。

※資料 1（家康クイズ）

【3 時間目】ねらい：江戸時代初期の幕府と朝廷の関係について理解させる。

学習活動	発問等（意図）
1. 駿府城について	・ 引退しても実権をにぎっていたことを押さえる。
2. 発展問題に挑戦	◎江戸時代初期の幕府と朝廷の関係の特徴を述べなさい。

※資料 2（発展問題）

【4 時間目】ねらい：日光東照宮について興味を持たせる。

学習活動	発問等（意図）
1. 将軍の名前を覚えよう	・ 3 分間で将軍を何人覚えられるか。
2. 日光東照宮の秘密	・ 映像資料などを使って東照宮に興味を持たせる。

【5 時間目】ねらい：光仲に興味を持たせ、イメージを持たせる。

学習活動	発問等（意図）
1. 鳥取藩池田家を確認	・ 初代光仲が東照宮を創建したことを押さえる。

2. 東照宮の広がりについて考える	(光政と光仲の国替えは光仲3歳の時。光仲は19歳まで江戸の鳥取藩邸で過ごし、19歳で入国)
3. 肖像画を描こう(宿題)	◎全国550社以上の東照宮が作られたのはどうしてだろう。(幕府がつくらせたのではないことを押さえる) (光仲の青年期を肖像画を描くことで印象づける)

※肖像画(生徒作品)参照

【6時間目】ねらい：光仲が麒麟の獅子頭を考案した理由を考えさせる。

学習活動	発問等(意図)
1. 鳥取藩の歴史を確認する	・藩祖光政と光仲の国替え等
2. 麒麟獅子舞について知る	・『因幡の獅子舞研究』を紹介し、予備知識を紹介する。
3. 最近のふりかえり	◎光仲が麒麟の獅子頭を考案した理由は何だったのだろう。 ○あなたが江戸時代入門の学習で疑問に思ったことや考えたことを説明してみよう。

【7時間目】ねらい：光仲に関連することをつなげて考える活動を通して、幕府と藩の関係を具体的に理解させる。

学習活動	発問等(意図)
1. 入門の復習	○あなたが江戸時代入門の学習で疑問に思ったことや考えたことを説明してみよう。
2. 光仲について	◎光仲が麒麟の獅子頭を考案した理由は何だったのだろう。
3. 幕府と藩の関係について(まとめ)	(鳥取藩池田光仲は、家康のひ孫にあたる。そのつながりを藩政に最大限活用しようとしたのではないか。)

4. 関連資料等

資料1

家康クイズ

- ①家康が子供の頃、経験したことはどれ？
ア 人質 イ 戦の大將
ウ 芝居の子役 エ 遣欧少年使節
- ②秀吉の死後、家康と対立したのは誰？
ア 石田光成 イ 石田三成
ウ 石田満成 エ 石田充成
- ③②の人物と戦ったのはどこ？
ア 小田原 イ 関ヶ原
ウ 長篠 エ 桶狭間
- ④③は今の何県？
ア 三重県 イ 岐阜県
ウ 愛知県 エ 静岡県
- ⑤③が起こったのは西暦何年？
ア 1595年 イ 1600年
ウ 1605年 エ 1610年
- ⑥③の戦いは何日続いたか？
ア 1日 イ 1週間
ウ 1ヶ月 エ 1年
- ⑦家康が住んだことのない城はどれ？
ア 岡崎城 イ 江戸城
ウ 駿府城 エ 岐阜城
- ⑧家康の政策でないものはどれ？
ア 鎖国
イ 武家諸法度
ウ 佐渡金山開発
エ 石見銀山開発
- ⑨家康が祀られている神社はどれ？
ア 日吉大社 イ 伊勢神宮
ウ 靖国神社 エ 東照宮
- ⑩家康の人間性をあらわす俳句はどれ？
ア 鳴かぬなら殺してしまえ…
イ 鳴かぬなら鳴かせてみせよう…
ウ 鳴かぬなら鳴くまで待とう…
エ 鳴かぬならそれもまたよし…

(解答例) ①ア ②イ ③イ ④イ ⑤イ ⑥ア
⑦エ ⑧ア ⑨エ ⑩ウ

(社会科教育 1992・No.362 を参考にして作成した)

資料2

発展問題

【設問】下の年表を参考にして、江戸時代初期の幕府と朝廷の関係の特徴について述べなさい。
1603年 家康、征夷大將軍に任命される。
1605年 秀忠、征夷大將軍に任命される。
1615年 禁中並公家諸法度を定める。
1617年 朝廷、亡くなった家康に東照大権現の神号を許可する。

- 1623 年 家光、征夷大將軍に任命される。
 1645 年 朝廷、日光東照社に宮号を許可する。
 この結果、日光東照宮となる。
 1646 年 朝廷、幕府の要請により、日光例幣使（朝廷の東照宮に対する崇敬を示す使い）を派遣する。
 ※家康の霊は、国家の最高神の地位を得たということ。
 （禁中並公家諸法度の説明は省略）

（『東大のディープな日本史』より一部平易にして引用）

（解答例）

徳川氏の全国の支配者としての地位は、朝廷からの征夷大將軍への任命によって保障されたものだった。そこで幕府は、禁中並公家諸法度を発して公家勢力の政治的発言力を抑制する一方、日光例幣使など朝廷の伝統的な権威を利用しようとした。



生徒が参考にした光仲の肖像画



生徒作品 最優秀賞



生徒作品 最優秀賞

5. 麒麟獅子舞に関する説および見解

- ・故 野津 龍^{とおる}氏（もと鳥取大学教授）の学説

慶安三（1650）年に藩主池田光仲が東照宮を建立し、承応元年（1652）年に祭礼行列に麒麟獅子が登場した。麒麟獅子舞が行われたのは、どんなに早くみても江戸時代の初期で、それに従って麒麟獅子頭がつくられた。（『因幡の獅子舞研究』〔第一法規〕より）

- ・永井猛氏（国立米子工業高等専門学校名誉教授）の見解

一角の獅子に関して、わからないことだらけである。現在と同じような面長は一本角の獅子が、1 回目の因幡東照宮祭礼に登場したかは不明だが、江戸中期の絵巻の姿につながることを考えると、一本角の獅子だった可能性は高い。おそらく、日光東照宮祭礼の一本角の獅子に近い獅子頭だったと思われる。（鳥取市民大学特別講座「麒麟獅子舞のはじまり～全国東照宮祭礼と獅子」より）

- ・三宅博士氏（シマネスクくにびき学園主任講師）の見解

因幡地域の麒麟獅子頭は、因幡東照宮創設時から発想されたものか否かという問題に対し、私は当初から麒麟像が想定されたことを支持したい。それは池田光仲が翌年の因幡東照宮の創建に備え、慶安 2 年に製作した奉納用太刀外装に麒麟の意匠が採用されている…（鳥取市民大学特別講座「麒麟獅子頭の成立と展開」より）

6. その他

池田光仲年表

1632	岡山藩池田光仲 (3)	国替を命じられる (江戸鳥取藩邸で過ごす)
1633	光仲 (4)	
1634	光仲 (5)	
1635	光仲 (6)	
1636	光仲 (7)	
1637	光仲 (8)	
1638	光仲 (9)	
1639	光仲 (10)	元服
1640	光仲 (11)	
1641	光仲 (12)	
1642	光仲 (13)	
1643	光仲 (14)	
1644	光仲 (15)	
1645	光仲 (16)	結婚
1646	光仲 (17)	
1647	光仲 (18)	
1648	光仲 (19)	鳥取に入国
1649	光仲 (20)	幕府の許可を得て因幡東照宮着工
1650	光仲 (21)	日光東照宮より分霊勧請 (因幡東照宮完成)
1651	光仲 (22)	家光の喪に服す
1652	光仲 (23)	初めての祭礼行列を行う …
⋮		
1685	光仲 (54)	引退 二代綱清へ
1693	光仲 (64)	死去

鳥取池田家の成立

関ヶ原の戦いで勝った徳川家康は、西軍に加わった因幡伯耆の諸大名の領地を取り上げ、鳥取城に池田長吉、米子城に中村忠一、鹿野城に亀井茲矩、若桜鬼ヶ城に山崎家盛をそれぞれ配置しました。

大阪の陣で豊臣家が滅ぶと、翌々年の1617(元和3)年播磨国(兵庫県)姫路城主であった池田光政を鳥取城主として因幡、伯耆をまかせることにしました。これによって因幡、伯耆両国に配置されていた諸大名は他国に領地を移しかえ

られました。鳥取城は池田光政が入り、ここに光政による因幡と伯耆領国 32 万石の支配が公認されました。1632(寛永9)年、光政の叔父であった岡山藩主池田忠雄が病死したとき、その子の光仲はわずか3歳であったために幕府は光政を岡山に移し、かわりに光仲に因幡伯耆を与えました。ちなみに忠雄の母は家康の娘の督姫で、光仲は家康のひまごにあたります。ですから鳥取池田家は外様大名ですが、徳川家とゆかりの深い家柄となります。岡山藩と鳥取藩はほぼ同じ 32 万石です。

これより光仲を初代藩主とする鳥取藩(因州藩ともいう)鳥取池田家が成立し、以来 12 代、238 年間の因幡と伯耆両国の統治が続きました。鳥取藩では、倉吉と米子城を重臣の荒尾氏一族に与え、その地域の政治をある程度まかせていました。
(以下省略)

(「ふるさと歴史めぐり」より一部平易にして引用)

文献

- 野津 龍『因幡の獅子舞研究』(第一法規)
平成30年度鳥取市民大学特別講座(麒麟獅子舞)
6.12 麒麟獅子舞のはじまりー 全国東照宮祭礼と獅子ー：永井猛氏配布資料
6.26 麒麟獅子頭の成立と展開：三宅博士氏配布資料
鳥取県史ブックレット1「織田 vs 毛利～鳥取をめぐる攻防～」
鳥取県史ブックレット4「尼子氏と戦国時代の鳥取」
中村忠文『因伯の戦国大名』(今井書店鳥取出版企画室)
「特別展 鳥取藩 32 万石」(鳥取県立博物館)
「鳥取入府 400 年 池田光政展～殿、国替えにございます」(池田光政展実行委員会)
「因幡民談記の世界 江戸時代の学者が見た因幡」(鳥取市歴史博物館)
「ふるさと歴史めぐり」(鳥取県教育委員会)
相澤 理『東大のディープな日本史』(中経出版)

★公開授業の具体

(1) 本時目標 光仲に関連することをつなげて考えながら、幕府と藩の関係を理解させる。

(2) 本時の展開 (7/7)

学習活動	○主な発問や指示 ・予想される生徒の反応	・留意点 ◎評価【観点】
1. これまでの学習の復習	○将軍の名前は… ○わずか2年で引退したのは… ○駿府城どんなところ？ ○鳥取藩主（大名）は…	・今までの学習の定着を図ったり、補足したりする。 ・資料集 p.108 の系図をみせて、御三家・御三卿のおかれた理由を確認する。
2. 幕府や藩について発表する	○鳥取藩の居城検討についてなど ○幕府や藩について疑問に思ったこと発表しよう。 ・鳥取藩はなぜ外様なのか。 ・東照宮が全国 550 社以上創建されたのはどうしてか。 ※幕府と藩の関係は一体？	・生徒の発言を引き出しながら、最終的に、幕藩体制について理解ができるようにしていく。（藩は独立国のようなもので、幕府といえども直接口出しすることはできなかった。） 【知識・理解】（後日テスト）
3. 光仲に関連することをまとめる	○光仲といえば… （祭礼行列とはどんなものだったのだろう。）	・まず、肖像画コンテストを行う。そして、ウェビングでまとめ、光仲の麒麟の獅子頭を考案したねらいは何だったのかに迫っていく。 （鳥取藩池田光仲は、家康のひ孫にあたる。そのつながりを藩政に最大限活用しようとしたのではないか。）
4. 自己評価カードの記入		

※このたびの授業では、麒麟獅子舞のあやし役（猩々^{しょうじょう}）について、ほとんど扱わなかった。

生徒の方から発言が出ればふれる程度。いずれにしても池田光仲が考案したと考えられている。